

新春セミナー 1/29 ホテルグランドパレス

建設廃棄物協同組合恒例の新春セミナー・懇親会が1月29日(火)にホテルグランドパレスにおいて開催されました。新春セミナーは、「雇用形態と社会保険」をテーマに開催され、組合員、賛助会員、共同購買取引先60余名の方々が熱心に耳を傾けました。引き続き行われた懇親会では、日本建設業連合会建築・土木副産物専門部会の方々をお招きし、100名を超える人たちに楽しく集っていただきました。



島田理事長

<新春セミナー>

講師に社会保険労務士の望月由佳先生と佐藤泉弁護士をお迎えしました。



望月先生

望月先生から、雇用契約に該当する場合は、原則社会保険の加入が義務付けられていますが、雇用、請負、委託等契約形態が多様化してきている中で、実質的に雇用契約とみなされることもあり得ることが実例を挙げ示されました。

また、佐藤先生からは、廃棄物処理法では再委託が原則禁止されていることから、請負、委託等の契約の場合、再委託とならないようにする必要があると指摘をされました。



佐藤先生

お二人の講演の後、島田理事長、伊勢副理事長も加わり、実例を挙げながらのパネルディスカッションが行われました。伊勢副理事長の実例紹介の後、具体的に一人親方のドライバーとの請負契約が法的にどうなるかの検証が行われました。法的には直庸の雇用契約が最も明快であることは当然



伊勢副理事長

ですが、経営的にも効率的にも、またドライバーの意識や要望の面からも請負契約もやむを得ず、車両の使用者を会社名とするなど、一定の要件を満たしていれば廃棄物処理法で罰則を受けることもないでしょうとのことでした。また、この場合に、会社が源泉徴収することができないため、一人親方のドライバーが税務申告することが必要ですが、逆に確実に税務申告することにより、雇用契約でないことを明確にし、社会保険の加入義務を回避することができることにもなるとの話が出されました。

最後に、「労働関係法、社会保険関連法、税法そして廃棄物処理法、それぞれの法律を順守しつつ、経営上の過重負担を回避することは難しいことです。このセミナーの話を参考に各々の経営者に判断を委ねますが、今後組合としても引き続きこの問題について検討を進めていきたい」との理事長の言葉でセミナーを締めくくりました。

<懇親会>



懇親会は、理事長の開会のあいさつで始まりました。来賓あいさつを日建連土木副産物専門部会の阪本部会長からいただき、建築副産物部会の笠井副部会長の乾杯の発声のあと、懇談に入りました。



阪本部会長



笠井副部会長

今回初めてのスライドによる建廃協の1年間の活動紹介を行った後、出席者をご紹介しました。引き続き、青年部準備会による獅子舞、三味線エンターテイメント「うめ吉」オンステージと新たなイベントを展開し、2時間余りを楽しく過ごしました。

レポート 事務局



青年部準備会 獅子舞

「獅子舞ですか!？」

これが私の正直な感想だった。建廃協の新春セミナー後の懇親会に何か出し物という会議の中で、「めでたい席だから獅子舞がいい」となったとのこと。では誰がやるのか。「プロを呼ぶか・・・そうだ青年部にやってもらえばいいのではないか。」建廃協が活動を続け良き伝統が構築されていくなか、ベテラン社員だけが集まり、組合活動のマンネリ化対策の一貫として、組合活動の活性化と若手社員の参加・育成を目的とし、昨年12月より青年部準備会を発足していたところだった。青年部準備会の一人は半強制的に獅子舞を踊ることが決まっていた。獅子舞一体一人で踊ることも出来たのですが、青年部では会社の枠を超え、年齢の枠を超えて頑張ろうとしていた矢先に、一人に「頑張ってるね」というのは、今までと何も変わらないではないか！そこで「会社に入って獅子舞を踊ることもなかなかないし、経験として面白いな」と私の考えも変わっていき、「私も獅子舞やります」と手を挙げたのだった。そこからは一体二人で二体の獅子をやろう、「それなら僕もやります」と四人になり、音楽は事務局に、練習はいつやるか、役割分担はどうするか、と自発的かつ各人が持ち味と意見を出しあった。本番当日。青年部メンバーが受付・音楽・獅子舞の司会と各方面で役割を果たした。そして懇親会会場からゲストを見送る際には、全員が自主的に並びに「ありがとうございました。」と頭を下げている姿を見て感動、達成感も味わえた1日であった。



今年10月青年部として正式に発足することになりますが、皆で頑張ったこの経験を生かし、志をひとつに、より良い組合活動を展開していきたいと思えます。また若手ゆえ、至らない点が多数あるかと思えますが、温かい目で見守って頂きたくお願い申し上げます。

レポート 助川朋寛 (ワイエム興業株)

お知らせ

★基礎講習会の日程が決まりました。4月23日(火) 日本教育会館 詳細は追ってご連絡いたします。

○建廃協では、NEWSに載せてほしい事柄、また載りたい方も募集中です。どんなことでもかまいません。感想などもぜひこちら→ jimukyoku@kenpaikyo.or.jp まで。